



京都杉田農園 トマトと向き合う杉田充さん・智恵美さん夫婦

CONTENTS

クローズアップ この経営者！…………… 2 ページ
トマトづくりの夢「1ha・1億円」
— オランダ式ハウスで高収量栽培に挑戦 —
京都杉田農園(京田辺市)

チャレンジ農業法人…………… 4 ページ
牛にも人にも心地よい酪農をめざして
— 大規模経営の要は「チームワーク」—
有限会社 BIG TREE FARM(綾部市)

ご存知ですか？
「消費税の軽減税率制度」(大阪国税局)…………… 6 ページ

一般社団法人 京都府農業会議 栗山正隆新会長
あいさつ…………… 7 ページ
一般社団法人 京都府農業会議の新体制…………… 7 ページ

農業法人ニュース…………… 8 ページ
— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —
■「平成30年度総会・農業法人経営セミナー」開催
■北部と南部で「交流サロン」開催

編集局から…………… 8 ページ

クローズアップ

この経営者！

トマトづくりの夢 「1ha・1億円」

——オランダ式ハウスで高収量栽培に挑戦——



京都杉田農園 代表 杉田充さん

京田辺市・京都杉田農園

すぎた 杉田 充さん(35)

杉田充さんが代表を務める京都杉田農園では、昨年9月、最新設備のトマトハウス（オランダ式高生産性施設）を新設。父から代々受け継いできたトマト栽培の知識とハウス内のさまざまなセンサーから届くデータ分析とを巧みに組み合わせ、高品質・高収量のトマトを生産している。こうした最先端の栽培管理システムに加え、従業員のライフスタイルにも配慮した雇用形態をとるなど、経営もまさに次世代型だ。

父の死を機に経営転換

京都杉田農園では、代表の充さん、妻の智恵美さん（33）、母の厚子さん（63）と、社員1名、パート9名で、次世代型ハウス（連棟型1棟：27a）と従来型ハウス（4棟：23a）でのトマト栽培と、水稻（3ha）を経営の柱とし、販路は自前の直売所を構えているほか、市内の農産物直売所、生協などへ出荷している。



オランダ式のハウス栽培で躍進を

充さんは専業農家の長男として生まれ、京都府立農業大学校を卒業後、実家にて就農。しかし、8年前に祖父、父が相次いで他界し、環境が一変した。26歳のときに独り立ちを余儀なくされ、それまでの茶・ナス・エビイモなどの生産を断念、父の代から40年手がけてきた「トマトと米」に絞り、営農拡大をめざした。

「かつて見学した栃木県の大規模トマト栽培に感銘を受け、いつかは自分も…と夢みてきた。もともと最先端のトマト栽培を、というのは父の夢でもあったから」と充さんは振り返る。

オランダ式・従来型を併用

「天候などに左右されない環境下で育てたい」というのが、充さんのトマト栽培の基本だ。お手本は、ハウス内の光や温度・湿度、CO²濃度などの栽培環境の制御を徹底して行うオランダの技術を生かした「次世代型ハウス」。熟慮を重ね、資金調達とその後の回収計画

に目途が立った昨年9月、家族の後押しもあって導入に踏み切った。

以来、まだ1年が経過したばかりだが、「1期目の昨年は施設の完成が遅れてトマトの定植時期がずれ込んだものの、ある程度の収量が確保できた。今期は目標とする数量には到達できそう」と充さん。そして将来的には「栽培規模1ha・売上1億円の経営をめざしたい」と意気込む。

併せて、従来型ハウスでのトマト栽培も行っており、次世代型ハウスから得られたデータをもとに、栽培管理の改善にもつなげている。



ハウス内の様々なセンサーからのデータを分析

雇用は子育て世代にも対応

京都杉田農園のもう一つの“強み”は、パートナーの智恵美さんの存在だ。同じ府立農業大学校の出身で、卒業後は神戸のトマト農家で学んだ経験を持つほどの“トマト女子”。夫婦ともどもトマト栽培へのこだわりは強い。

現在、社員、パート合わせて10名を雇用している。農園のモットーは「働く人が働きやすい職場環境を」。特に子育て世代の女性が働くことができるように、週3～4日、短時間勤務を希望する人も雇用、フルタイムなら1人で十分なことでも、2～3人体制でやっていることも。「短い時間に集中して作業する。みんなのライフスタイルに合った雇い方を心がけています」と智恵美さん。次世代型ハウスの導入で家族の労働時間にもゆとりが生まれたという。



選別作業で大玉・中玉・ミニトマトを仕分ける
来シーズンからスーパーへも出荷予定

地域農業を引き継ぐ役割担う

都市近郊で通勤条件に恵まれ、農業後継者が少なくなって農地の遊休化が進みつつあるなかで、地域農業を維持するために水稻作業も行う杉田農園には作業委託の話が次々持ち込まれてくる。

「地域にはナスやエビイモを育てている若手はいるが、トマトは少ない」と充さん。これからはジュースなどの加工品、それも糖度だけではなくて、甘みも酸味もしっかりある、おいしいトマトジュースをと青写真を描く。先輩として「地域でのモデルとなるような経営に取り組み、その姿を見て自分に続くようなトマト農家が現れることを期待している」と話す充さんに、次世代へ地域の農業を引き継ぐ経営者にと、周囲の期待も大きい。



左から社員の松尾舜介さん、奥さんの智恵美さん、
充さん、母の厚子さん

牛にも人にも心地よい 酪農をめざして —大規模経営の要は「チームワーク」—



(有) BIG TREE FARMを支えるスタッフ(前列中央が鳥淵大樹さん)

有限会社 BIG TREE FARM

綾部市

- 代表取締役 鳥淵 大樹
- 設立年月 2004年2月
- 資本金 300万円
- 労働力 社員15名、パート雇用5名
- 事業内容 生乳生産と子牛・堆肥の販売：400頭の乳牛を飼養

全国共進会で部門優勝に輝く

代表取締役の鳥淵大樹さん(36)は、2002年に民間企業を退職後、実家の牧場の手伝いや鹿児島県・種子島で研修をしながら、独立に向けて経営基盤となる用地を探していた。たまたま綾部市内の桑畑跡が売りに出され、地元住民への説明会を何度も開いた後、2004年2月、「(有) BIG TREE FARM」を設立し、乳牛200頭規模でスタート。現在は400頭体制へと経営を軌道に乗せ、生乳生産と子牛・堆肥の販売を行っている。

乳牛の共進会には、スタッフの励みにもなるという観点から積極的に出品。第8回(2012年)全日本ブラック&ホ



代表取締役 鳥淵大樹さん(36)「京都の酪農を全国にアピールしたい」

ワイトショー(5年に1度の開催)で未經産ミドル部門のチャンピオンになるなど、これまで各共進会での上位入賞は数

多い。それは牧場だけでなく、「決して畜産の主産地でない『京都の酪農』を全国にアピールするチャンスにもなるから」と鳥淵さん。情報発信の一環という考え方だ。

「思いやりの心」を持つ

現在、スタッフ数は20代～30代を中心に20名（社員15名・パート5名、男性15名・女性5名）。主にハローワークや農業求人サイトから求人を行っている。

鳥淵さんのモットーは、「思いやりの心」を持つこと。業務は、担当制ではなく、従業員のチームワークを重視。作業は搾乳、給餌、牛舎の清掃などすべての業務を全員が把握し、フォローしあいながら仕事を進めていく。そうすると全員が新人をサポートすることができるので、未経験者でも働きやすいと社内の評判も上々だ。

仕事は早番（6時～16時半）遅番（16時～翌2時半）の2交代制だが、変更は数か月ごとに行っており、休憩時間も身体の負担を考えて2時間以上を確保。「3K」のイメージもある酪農だが、鳥淵さんは「みんなが家族経営の気持ちを忘れずに」と説く。

また、スタッフのスキルアップにも力を入れ、近年は「農の雇用事業」（雇用就農者育成タイプ）を活用、各種研修・講座への参加や、資格習得の啓発、家畜保健所やメーカーの協力を得て専門的な研修を牧場で開いている。

牛と向き合い、数値と向き合う

鳥淵さんは、健康な牛づくりのために3大環境（休息・採食・搾乳）の改善を図りながら、繁殖能力の維持・向上、飼料効率アップに取り組んできた。

一方、飼料価格や子牛価格が上昇を続け、全国的に酪農家が減っているなかで、鳥淵さんは「規模拡大やコスト削減だけでは、市場環境の変化やリスクに迅速に対応し、牧場経営を安定させることはできない」と判断。6年前、経理・財務の責任者として一般企業でキャリアを積んだ中村祐介さん（39）が入社、経営内容を精査することでキャッシュフローなど収益の改善に努めている。「経理・財務面から、代表とスタッフの酪農に賭ける思いを形にできるよう盛り上げていきたい」と中村さんはいう。



スタッフは20代～30代が中心。若い力があふれる

地域とより密接な関係を

鳥淵さんがめざしているのは“地域とともに生きる牧場”だ。綾部市内の幼稚園児、小学生などの牧場見学や研修を受け入れ、酪農の現場を知ってもらうだけでなく、生命の尊さや、牛が命がけで出産をするなかで牛乳がつくられていることを伝えている。

また、牧場でつくる堆肥は地元の田畑に還元しているが、販売することだけが目的ではない。畑や作物の管理にあたっては、障がい者の自立を支援するNPO法人などにも協力してもらうなど、「地域の活性化につながれば…」と願う。

業界以外の人との出会いが増え、牧場経営のプラスとなる情報が得られることもしばしば。「その“縁”を大切に、地元の理解を得ながら着実に経営をさらに発展させていきたい」と鳥淵さんは思いを込めた。



搾乳は1日2回。一度に40頭の牛を搾ることができる

ご存知ですか？「消費税の軽減税率制度」（大阪国税局）

2019年（平成31年）10月1日から、消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げられると同時に、消費税の軽減税率制度が実施されます。

2019年（平成31年）10月1日から消費税の軽減税率制度が実施

消費税

税率8%
(国 6.3%、地方 1.7%)

標準税率 10% (国 7.8%、地方 2.2%)

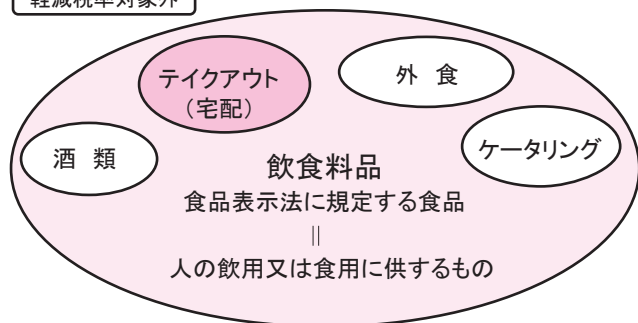
軽減税率 8% (国 6.24%、地方 1.76%) ⇒ 飲食料品と新聞(※)が対象

※新聞とは、週2回以上発行されるもので、定期購読契約に基づくものに限られます。

1 軽減税率の対象となる飲食料品の範囲

軽減税率対象

軽減税率対象外



農産物等に関する例

軽減税率 8%	- 米（酒米含む） - 野菜（果物） - 花（食用） - 食肉 - 農家レストランの弁当の販売 - 送料（農作物代に含まれている場合） - 包装代（農作物代に含まれている場合） - 果物狩りで採った果物の土産販売
標準税率 10%	- 飼料用米 - 種もみ - 日本酒 - 苗木 - 花（観賞用） - 肉用牛などの生きた家畜 - 農家レストランでの飲食（外食） - 送料（農作物代に含まれていない場合） - 包装代（農作物代に含まれていない場合） - 果物狩りの入園料

○ 帳簿や請求書等は、税率ごとに区分しておく必要があります。

【例】



苗木の販売
肥料の販売
標準税率 10%

生産者



野菜の販売
軽減税率 8%

販売先



2 各種お問合せ先

○ 軽減税率制度への電話によりお問合せ先

【専用ダイヤル】：0570-030-456

【受付時間】：9時～17時（土日祝除く）

国税庁のホームページ (www.nta.go.jp)
で、制度の詳細が、ご確認いただけます。

国 税 庁
ホームページ

消費税の軽減税率制度
軽減税率制度について詳しく知りたい方はこちらへ

○ 軽減税率対策補助金事務局

複数税率に対応したレジや受発注システムの
導入・改修には、補助金制度が設けられています。

【専用ダイヤル】：0570-081-222

【受付時間】：9時～17時（土日祝除く）

3 大阪国税局からのお知らせ

2018年（平成30年）4月以降、各税務署では、消費税
軽減税率制度説明会を無料で開催しています。

開催場所や開催日程等については、順次、国税庁のホーム
ページに掲載しておりますので、是非ご確認ください。

軽減税率制度説明会の日程

国税庁 軽減税率制度説明会

で検索



● 一般社団法人京都府農業会議 栗山正隆新会長あいさつ ●

6月20日に開催の通常総会におきまして、15年間の長きにわたり京都府農業会議の会長として、府内の農業委員さんや農地利用最適化推進委員さんの先頭に立って、京都府の農業・農村の健全な発展に御尽力いただきました草木前会長に代わり、会長を仰せつかることとなりました栗山正隆でございます。

最初に、先の大阪府北部を震源地とした地震、西日本7月豪雨、そして台風12号により被災されましたみなさまに対し、心からお見舞いを申し上げます。農業会議といたしましては、お困りの地域や農業者のみなさまからの御相談を真摯にお聴きし、国や京都府が措置されました復興・復旧のための事業等の確実な実施に向けてしっかり伴走して参りたいと考えておりますので、是非、お声掛けをいただきたいと存じます。

さて、京都府農業会議は、去る7月1日に公益社団法人京都府農業総合支援センターと合併し、新たに「一般社団法人京都府農業会議」として再出発をいたしました。新農業会議は、両団体がそれぞれ所管していた「新規就農・就業対策」や「農業経営の法人化等安定対策」などの担い手育成対策、「農地中間管理事業」や「農地利用最適

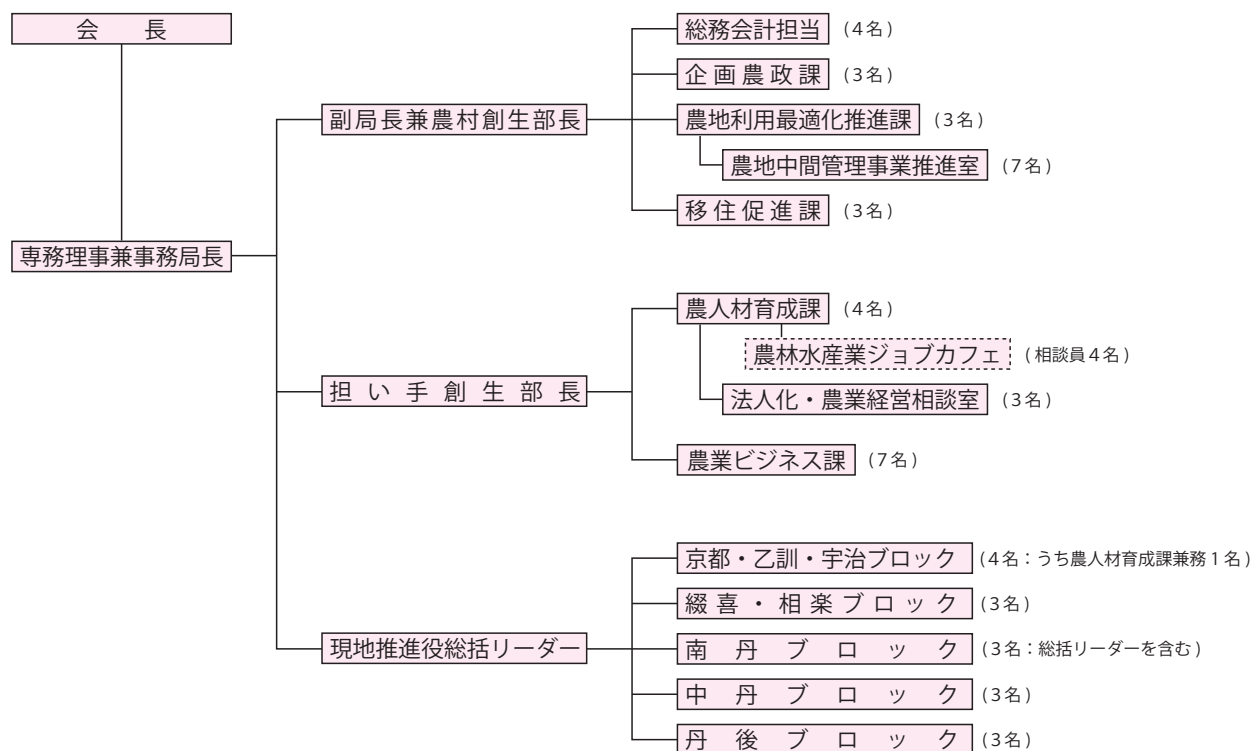
化」などの農地対策を一体的に所管し、実施していくこととなりました。また、府内5ブロックに16名の現地推進役を配置し、各地域の課題に対して現地現場で対応していくこととし、我々の目標である「人と農地をワンストップで支援する」体制となりました。



前草木会長は常に、高齢化が顕著となっている中山間地域が多い京都府では、各地域において、就農したい若い人材や地域外の法人・担い手を受け入れる人材確保と、地域の意思を取りまとめるリーダーの確保の重要性を訴えておられました。

私は、この最重要課題であります農業・農村の人材確保に、引き続いて取り組んでまいりたいと考えております。そのため、府内各地の集落営農組織や農業法人経営者のみなさまをはじめ、今後とも地域の農業を担っていただくみなさまの御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

● 一般社団法人 京都府農業会議の新体制 ●



農業法人

ニュース

— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —

■「平成30年度総会・農業法人経営セミナー」開催

6月26日(火)、ルビノ京都堀川において、平成30年度京都府農業法人経営者会議総会並びに農業法人経営セミナーを開催し、会員・関係者約70名が出席し盛会となりました。

総会では、第1号議案・平成29年度事業報告の承認に関する件、第2号議案・平成29年度収支決算の承認に関する

平成30年度
京都府農業法人経営者会議 総会・経営セミナ



山田会長あいさつ



▲京丸園(株)代表取締役 鈴木厚志氏



件、第3号議案・平成30年度事業計画の承認に関する件、第4号議案・平成30年度収支予算の承認に関する件が原案どおり承認されました。

農業法人経営セミナーでは、京丸園(株)の鈴木厚志代表取締役から「障がい者雇用をきっかけに見えてきた農業活性化のヒント～経営戦略としてのユニバーサル農業～」と題して講演をいただきました。

講演では、障がい者雇用と向き合って、作業に対する具体的な指示の大切さ、気付きの大切さ、ユニバーサル農業は新たな産業を作り出し、地域福祉を担う産業になれば、自分たちもスキルアップに繋がっていくことが出来るとされました。

■北部と南部で「交流サロン」開催

京都府農業法人経営者会議では、7月4日(水)北部(丹後王国)、7月17日(火)南部(こと京都(株)向島工場)で交流サロンを開催しました。



7月4日(水) 北部会場：丹後王国

今回は、いよいよ加入申請手続きが始まる収入保険制度について、京都府農業共済組合から説明を頂いた後、収入保険に関する質問や個別相談が行われました。

収入保険の加入については、京都府農業共済組合の各支店にお問い合わせください。



7月17日(火) 南部会場：こと京都(株)向島工場

編集局から

◆この度の西日本豪雨により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された全ての皆様にお見舞い申し上げます。伝統野菜である京野菜の産地も大きな打撃を受けました。一日も早く復旧・復興されますことをお祈り申し上げます。

◆今回は、「自分で食べて美味しいトマト生産」に挑戦を始めた、京田辺市の京都杉田農園と「規模拡大に向けてチャレンジ」をしている(有) BIG TREE FARM を取材させていただきました。

両者とも最新鋭の施設で、若い従業員にとって働きやすい職場づくりに取り組んでいます。これからの京都の農業を支えていく経営者として今後の活躍を期待しています。

発行/2018年8月

発行者 (一社) 京都府農業会議(京都府担い手育成総合支援協議会事務局)

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075(417)6847